

Hilliard State School 訪問

白百合学園小学校 教諭 濱屋 陽子

1 学校概要

2019年9月4日、私立学校教員海外研修団は、ブリスベンに到着して最初の視察先である Hilliard State School を訪問した。当校は、ブリスベン中心部のシティから車で30分ほどの静かな住宅地にある。1991年に創立されたクイーンズランド州の公立小学校で、現在は約700名の幼児・児童が在籍している。



school signの前で集合写真

特筆すべきなのは Apple 社の認定校として州の ICT 教育の最先端を担っていることである。ICT 教育、STEAM 教育 (Science 科学/Technology 技術/Engineering ものづくり/Art 芸術/Mathematics 数学)、ロボティクス (ロボット工学)、コーディング (プログラミング) の分野において革新的な取り組みをしていることから、「テクノロジースクール」と呼ばれることが多いそうである。Prep から6年生までの全ての児童が学習のために自分の iPad を自宅から毎日持参することになっており、これは「iLearn@Hilliards BYO iPad プログラム」と呼ばれている。

対応してくださったのは副校長の Jason 先生と教務主任の Kirsty 先生。School-Captain と呼ばれる代表児童数人と共に、にこやかに歓迎してくださった。

2 校内の様子

初めに見学したのは、図書室を兼ねたテクノロジーのクラス。Coding の授業である。3年生の児童が数人ずつグループになり、タブレットやコントローラーを操りながらロボットを動かしていた。ロボットはレゴを使って作ったかわいらしい車で、プログラミングにはレゴを頻繁に活用しているそうである。児童はプラスチック板や身近にある遊具を使って道路を作り、車をうまく走らせるよう友達とディスカッションしながら試行錯誤している。この教室には全クラスが週に1回やってきて、



テクノロジー教室 (図書室)

様々なスタイルのテクノロジーの授業をする。グループワークを通して問題解決学習をしているのだ。部屋には3Dプリンターや動画撮影用のカメラ、そのためのグリーンバックなどが用意されており、それらを積極的に活用しているそうである。何よりも、目を輝かせて楽しそうに活動する児童の姿が私には印象的で、この授業が大好きだということが伝わってきた。

次に参観した4年生の算数のクラスでは、各自が自分の課題(ゴール)を決めて、それに向かって個々に、または友達と協力しながらiPadを使って学んでいた。紙のワークブックを横に置きながらiPadで演算して

いる児童、2桁同士のかけ算の筆算の意味を考えている児童、クラスメイトに教えたり発表したりするためのプレゼンのリハーサルをしている児童など。その学習方法はさまざまであるが、全員が自分のiPadを使って学んでいることが共通している。教員は、机間巡視をしながら各自が活動する様子を見守っている。iPadはほぼ毎時間使用するようで、児童はそれぞれが適したアプリを使って学んでいた。



レゴのロボットをタブレットで操作する



ツールとして活用されるタブレット



iPadで手本を見ながら粘土で文字を作る幼児



各自の好きなアプリで遊びながら学ぶ児童

その後、Prep（入学準備の幼児クラス）や、総合学習のようなクラスも見学させていただいた。いずれも、教員や児童のすぐそばにはiPadがあり、それがまるで筆箱やノートと同じように自然な形で学習のツールとして生かされている。それは、「タブ

レットを学ぶ」のではなく、「タブレットを使って学ぶ」のだということがよく分かる姿であった。

3 Hilliard State School における ICT 教育

見学の後は、小さな会議室で Jason 先生と Kirsty 先生から、この学校における ICT 教育導入の経緯やその効果などについてお話を伺った。

(1) iPad プログラム導入の経緯

2011年	教員、保護者、スタッフの相談を経て E ラーニングの指針を立てる。
2012年	最初の iPad を数台購入。
2013年	全教員に iPad が配布され、教室で活用し始める。
2014年	9 クラス、200 名以上の児童が BYOi (Bring your own iPad) を始める。
2015年	19 クラス、500 名以上の児童に拡大。2 年間 Apple 認定校となる。
2016年	全学年の全校児童が BYOi。(ただし数名は持参できなかった。)
2017年～	再度 Apple 認定校となる。効率向上を目指して改革を続けている。

クイーンズランド州で前例のないプログラムを先駆けて開拓してきた先生方は、グループで勉強会をしながら手探りでここまで来たそうだ。先生方はよいアプリを見つけるとお互いに紹介し合い、学び合ううちに徐々に使用に慣れてきて、今のような状況になった。今もなお、勉強の途上であるとおっしゃっていた。

(2) iPad を使用した学習の効果、BYOi の意義について

当校では、iPad プログラムを取り入れてから、全ての教科で iPad を活用した授業を実施している。必然的に授業は画一的なものではなく合科になることも多い。児童が iPad を持つことによって、教員が一方的に教えるのではなく、児童自身に取り組んでいることを教員に示したりグループやクラスに広げて共有したりすることで、以前よりも学習効率が上がったそうである。iOS の利便性と強力なサポート、持ち運びやすさ、すぐに写真を撮れること、アプリの多様性、そしていつでもどこでも学べることなど、iPad の優れた点は数知れない。

また、BYOi のタブレットは、ほぼ 100%保護者が購入した個人所有のものである。(経済的な理由などでそれができない家庭の児童には、学校所有の iPad を貸し出している。)従って、デバイスのサイズや年式はまちまちであるが、いずれにしてもその使い勝手がほぼ同じであることは iOS ならではの長所と言えるだろう。各自の iPad であるため、児童は毎日家に持ち帰る。そこで、保護者はその日の学習内容や我が子の進捗状況を知ることができる。宿題もタブレットで出すことが多いため、学習の連続性も期待できるとのことだった。iPad は、児童生徒がより良く向上していくために、学習効率を上げてくれる道具なのである。その時に忘れてはならない大切なこととして、2つのキーワードを教わった。

WALT = We are learning to… 【何を学んでいるのかを明確に】

WILF = What I'm looking for… 【自分が探しているものは何かを明確に】

授業中、iPad を使用して学んでいる児童に「今、何しているの？」と尋ねた時、彼らが何も答えられないようでは、その授業はうまくいっているとは言えない。教員の仕事として、児童の学習目的を明確にしておくことが重要なのだと感じた。

(3) リテラシーに関して

この学校では、初めに全ての保護者と児童が、iPad 使用に関して責任ある行動をとるための同意書を学校と取り交わすことになっている。内容は、例えば、「毎日 iPad をかばんに入れて持参すること」「毎日充電してくること」「破損したらすぐに先生と保護者に報告すること」「学校で写真やビデオを撮影してよいのは、先生の許可があった場合のみ」「インターネットに接続できるのは、フィルタリングされたサイトのみ」など。そして、守れなかった時は、保護者を呼び出すなどのペナルティがあるということも興味深い。Jason 先生は、「Apple ユーザーとしてのリテラシーは、スポーツマンシップと同じだ」と常日頃児童や保護者に伝えているようで、これまで困った事例はあまり無かったというお話だった。導入当初は「iPad 漬けになるのではないか」という危惧が一部保護者の間にあったが、現状はそんなことはない。ただ、この学校では iPad は学習に使用するものなので、休み時間には各教室の鍵付きケースの中に収納し、触れないこともルールとなっているそうである。

4 おわりに

私は、Hilliard State School の取り組みを目の当たりにして、自分の勤務校は 5 年、いや 10 年遅れているのかもしれないと痛感した。私達の学校では、パソコン教室の整備や情報の授業は早くから実施されてきたが、こと iPad に限っていえば、今年ようやく全教員に iPad Pro が配られ、その他に 45 台の児童用 iPad を共有の物として使用し始めたところである。近い将来、全校児童に各自の iPad を持たせていく計画で、まずは教員からその使用に慣れて技術面での向上を図ろうとしている発展途上の段階だ。iPad を活用して学ぶとき、教員は児童が解決してみたいくなるような魅力的な課題や材料を示唆し、あとは自然と児童が自ら学び、時に周りの友達や教員と共に学び合いながら、各自のゴールへと近づいていくことができるのかもしれないと、大きな可能性を感じた。そのために、教員は研鑽を積み、新しいことにも果敢に挑戦していく意欲と行動力が必要とされていると思う。Hilliard の先生方は、「iPad は学ぶ目的ではなく、学ぶためのツールなのだ」と強調していらした。私達もこれを便利で楽しいツールとして、よりアクティブで有意義な授業を児童と共に作れるような教員でありたい。iPad を使いながら、児童が学習目的を見失うことなく、常にその時間の各自のゴールを意識して自ら学ぶ授業。私もそれを目指して実践していきたいと思う。

参考 : Hilliard State School HP <https://hilliardss.eq.edu.au/>